

第 43 回電子情報化委員会 議事録

日時：2010年8月27日（金）15:30～18:30

場所：JCI 会議室 12F

出席者：中村委員長、三木幹事、浅本、甲斐、舌間、高橋、田嶋、田所、八十島、吉岡の各委員
（事務局）井上、戸口

資料

43-0：電子情報化委員会（第43回）議事次第

43-1：第42回電子情報化委員会議事録（案）

43-2：メールニュース登録者数の推移（平成22年8月27日）

43-3：会員専用ホームページにおける会員向け公開について（コンクリート工学年次論文集）

43-4：アクションプラン2010（コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化）

43-5：アクションプラン2010（JCIメインHP）

43-6：アクションプラン2010（HP一般向けコンテンツ）

43-7：アクションプラン2010（各種電子システム）

43-8：アクションプラン2010（メールニュース）

43-9：アクションプラン2010（研究委員会HP）

議事

1. 前回委員会議事録（案）の確認（三木幹事、資料43-1）

- ・ 第42回議事録（案）の内容を確認し、一部誤字を修正したものを承認した。

2. メールニュース登録者について（事務局、資料43-2）

- ・ 現状の登録者数3175名（2010年8月現在）。前回委員会（5月）より200名増。
- ・ 登録案内を配布したものの、年次大会では登録希望者は少なかった。今後、診断士講習会の案内にメールニュース登録案内を同封する予定である。10月の技術講習会においてもこれまで同様に配布予定である。

3. 会員専用ホームページにおけるコンクリート工学年次論文集の公開（三木幹事、資料43-3）

- ・ 中村委員長より、8月20日に開催された年次大会委員会に出席し、年次論文集の会員専用ホームページにおける公開について提案したことが報告された。提案の結果、年次大会委員会としては賛成であり、早急に対応してもらいたいと依頼された。なお、年次大会委員会の当日、魚本年次大会委員会委員長が欠席のため、三橋副委員長（JCI 副会長）の下、議事進行されていた。
- ・ その後開催された理事会において、三橋 JCI 副会長から本件に関して話題提供された。コンクリート工学論文集、会誌コンクリート工学も同様にデジタルアーカイブ化し、さらに会員限定ホームページ公開していければよいのではとの意見があった。今後の具体的な作業について、担当委員長間で話し合うため、三橋 JCI 副会長が提案し、会誌編集委員会（和泉委員長）、コンクリート工学論文集（大津委員長）、年次論文集（橋高委員長）、ACT（三橋委員長、多田様）と中村委員長との間で11月中旬に電子化に関する打ち合わせを実施することが

決まった。日程は後日調整する予定であるとのこと。

4. アクションプラン 2010 について

4.1 コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化（梶山委員、三木代理、資料 43-4）

梶山委員が作成した資料を基に三木幹事が説明した。主な議論は以下の通りである。

- Web 公開についての規則が必要である。これは、特にコンクリート工学論文集に限ったものではない。
- Web 公開された資料の取り扱いについて、土木学会では個人の使用に関しては自由である。営利目的などの使用は認めていない。なお、画像の品質はオリジナルの冊子版より劣る場合もある。
- 公開した論文の電子ファイルは、閲覧のみ可能、保存、コピー、印刷の可否など、文書に関する各種制限を付けることも可能である。
- 公開時期、発行時期、CD 版（電子版）の配布方法、紙版の廃止についてなど、詳細を詰めていく必要がある。
- 以上の議論を参考に、会員専用ホームページにおける公開に向けての具体的な作業をまとめる。（担当：梶山先生）

4.2 各種電子システム（八十島委員、資料 43-5）

八十島委員より資料について説明された。主な提案、議論は以下の通りである。

- 年次論文の公開に当たり、約 700 件程度の pdf ファイルを概要ページにリンクする必要がある。作業の効率化のため、アップロードシステムを作成する。
- 入会手続き、各種申請手続きの簡素化のため、電子化することが望ましい。事務局では、会費の振り込み書を fax または郵送に添付して、振り込みを確認している。電子化された場合、これらの確認作業をどのように代替するのが問題である。
- 長期スパンにおける web 教材について、土木学会にて作成された E-learning が参考になる。作成する場合、既存教材との差別化が必要。
- 長期スパンにおける実験データ登録システムについて、各大学研究室や研究機関で作成しているが、それぞれ個別のデータベースである。JCI の役割として、例えばデータ登録のフォーマットを作成して、ネットワークのフレームワークを構築するのが実施可能と思われる。
- 以上の議論を参考に、実施可能な作業についてさらにブラッシュアップしていく。（担当：八十島委員）

4.3 JCI メイン HP（吉岡委員、資料 43-6）

吉岡委員より資料について説明された。主な提案、議論は以下の通りである。

- 周辺の生コン技術者の方々を対象としたインタビューから得られた意見をまとめた。
- 生コン関係の方が技士や主任技士、診断士試験を受験しており、資格試験に関する要望は非常に多い。例えば試験問題の解答など。セメント協会では、模範解答集を公開している。
- 生コンセミナーの要約がほしいとの意見もあった。来年度の大阪大会においてどのように対応しているのか三木幹事が情報を収集する。
- 今回のアンケートは、中国地方の限られた対象からの結果であり、必要に応じてさらに広くアンケートを実施する予定である。ただし、メールニュース、およびホームページに関するアンケートは過去に既に実施しているため、その結果も参考にする。

- ・ 以上の議論を参考に、実施可能な作業についてさらにブラッシュアップしていく。必要な場合は、アンケート形式で要望等を調査していく。(担当：吉岡委員)

4.4 HP 一般向けコンテンツ (舌間委員、資料 43-7)

舌間委員より資料について説明された。主な提案、議論は以下の通りである。

- ・ JCI の HP 立ち上げ時に開設されたものがそのまま残っている部分があり、問題点が多くある。
- ・ 「教えてコンクリートブック」、「四季の散歩道」については完成度が高い。
- ・ 一般向けのページでは、専門家を対象としているのか、高校生やあまり専門知識のないが興味はあるといった初心者を対象としているのかが、HP の入り口を含め不明瞭である。より広く興味を持ってもらうためには、専門知識がなくても見てもらえる内容がよい。
- ・ 会誌の中にも一般向けにできる内容の記事があり、それらを一般向けに公開することもよい。
- ・ メールニュースを活用した HP の広報は有用である。
- ・ 各年次大会で行われる行事（今年度の場合は小学生が作るコンクリートコンテスト）の内容を一般向けコンテンツとしてトップページで公開してもよい。
- ・ 以上の議論を参考に、作業の優先順位をつけ、実施可能な作業を抽出していく。(担当：舌間委員)

4.5 メールニュース (高橋委員、資料 43-8)

高橋委員より資料について説明された。主な提案、議論は以下の通りである。

- ・ 会告ベースではなく、独自の記事を入れていくことが今後の目標となる。非会員への広報を通じて、会員入会機会を確立していく。
- ・ メールマガジンのような役割へ変換していくことも考えられる。その際に、はじめはテキストベースの内容とし、徐々にグラフィックを多用した内容へ移行していくことが考えられる。
- ・ ニーズの多い、技士、主任技士の方々が興味ある部分を拡張する。
- ・ メールニュースが長くなるのは適切ではない。例えば、会誌の記事の一部をメールにて配信し、詳細は HP 会員専用ホームページで閲覧できるような方法がよい。JCI の HP とのつながりを考えていく必要がある。
- ・ 以上の議論を参考に、実施可能な作業についてさらにブラッシュアップしていく。(担当：高橋委員)

4.6 研究委員会 HP (浅本先生、資料 43-9)

浅本委員より資料について説明された。主な提案、議論は以下の通りである。

- ・ 研究委員会 HP の更新頻度は高くないのが現状である。現状、一度も更新されていない委員会もある。
- ・ 研究委員会 (年 3 回程度) にて、具体的な更新状況を報告し、更新の頻度を上げてもらう。

5. その他

- ・ 次回は、11 月 29 日 (月) 14 : 00 から、JCI 会議室にて実施する。

以上